

平成 27 年度(2015) フィールド農学基礎実習（圃場試験実習）

耕種概要

使用圃場： 附属生態調和農学機構 水田

作物と品種： イネ (*Oryza sativa* L.) 4 品種（各品種の紹介は別紙）
コシヒカリ，タカナリ，IR64，SL2105

試験区配置： 乱塊法（3 反復）

栽植密度： 標準区 = 22.2 株 m^{-2} （条間 30cm×株間 15cm の正条植え）

植付け苗数： 1 株当たり 3 個体

施肥量： 標準区：基肥 窒素 N:リン酸 P_2O_5 :カリ $K_2O = 2.4 : 3.6 : 3.2 \text{ g m}^{-2}$
追肥無し

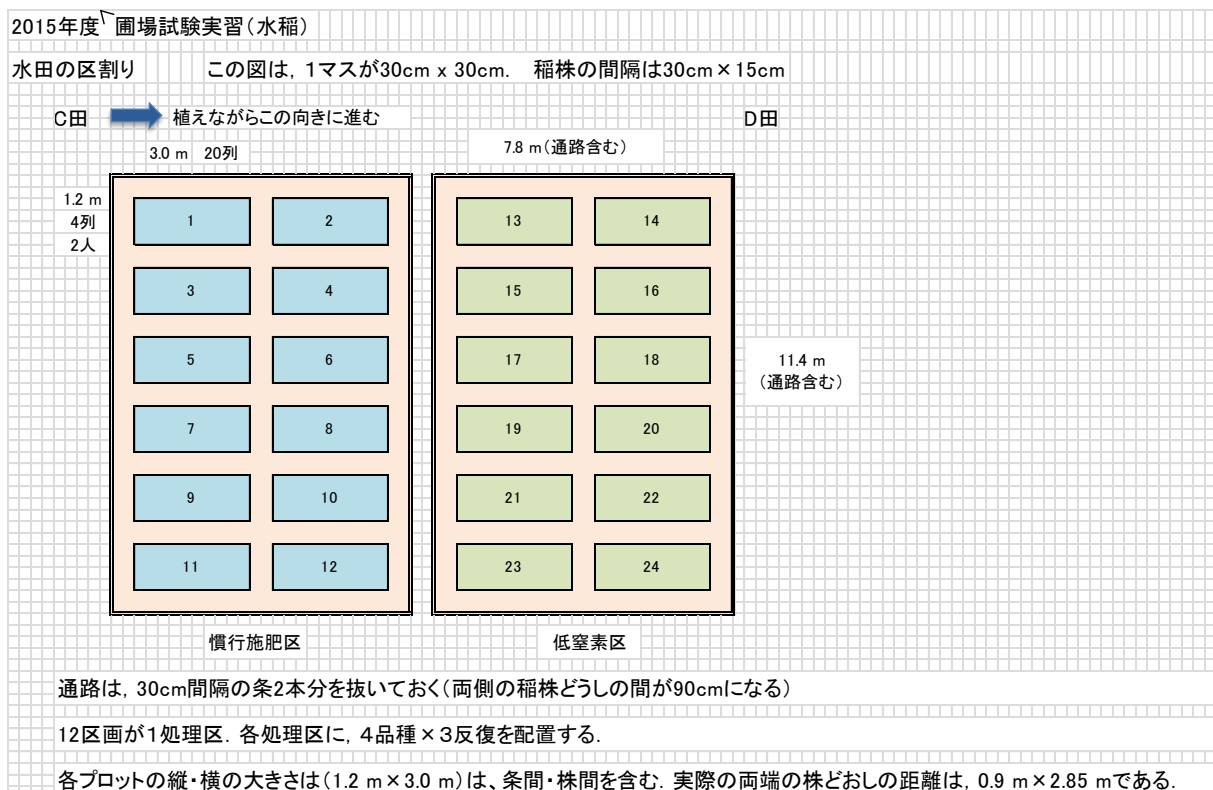
低窒素区（D 田）基肥 $P_2O_5:K_2O = 3.6 : 3.2 \text{ g m}^{-2}$

育苗： 5 月 8 日播種。苗箱を用いた慣行法による。

移植： 6 月 5 日移植。中苗・手植え。

その他： 水管理，病害・雑草防除などは，生態調和農学機構の慣行による。

* 参考 — 生態調和農学機構の水田での標準的な窒素施肥量は基肥 6 g m^{-2} + 追肥 $2\text{--}4 \text{ g m}^{-2}$



平成 27 年度(2015) フィールド農学基礎実習（圃場試験実習）

供試品種

コシヒカリ

日本型の早生品種（関東では 7 月末～8 月初旬に出穂）。正式な系統名は「水稻 農林 100 号」。昭和 38 年の登録以来，食味の良さにより栽培が増え，現在の日本の主要品種。追肥により茎の節間が徒長しやすく，倒伏しやすいのが難点。

タカナリ

半矮性インド型の多収品種。中生～晩生（関東では 8 月中下旬に出穂）。穂重型で 1 穂粒数が多く粒も比較的大きい。ハバタキとともに，特に玄米収量の高い超多収品種。食味が悪く実用化されていなかったが，飼料用や米粉パンへの利用が検討されている。

IR64

国際稲研究所（IRRI）が育成した半矮性インド型品種。晩生（関東では 8 月下旬に出穂）。緑の革命で知られる IR8 に似るが，IR8 以上に分けつが多い穂数型の品種。

SL2105

IR64 を遺伝背景に、第 1 染色体長腕がコシヒカリに置換した系統（SL: substitution line）。置換部位に座上している遺伝子、*sd-1*（節間伸長）や *sh1*（脱粒性）の効果を見ることができる。

* 日本の品種名は，長年，国（農水省）の登録品種はカタカナで，都道府県や民間の品種はそれ以外の文字（ひらがな，漢字など）で命名されていた。例：コシヒカリ＝国の登録品種，あきたこまち＝県の登録品種。近年ではそうした制約がなくなっている。